



私の思い出写真館

人生の転機 としてのMBA



中谷 昇
ジャステック
取締役社長

慶應義塾大学理工学部を卒業後、日本企業のフランスの研究所に五年間駐在してR&Dマネジメント業務に従事しました。

この仏研究所は、独立採算の子会社で、プロジェクトのスポンサーを本社から探してくることで、経営が成り立つモデルでした。技術一本でやってきた私が、日本の事業部へビジネスの観点からプロジェクトの価値をプレゼンテーションするわけですが、バリュエーション(投資の価値計算や事業の経済性評価)どころか財務諸表の読み方さえ分からないというところからのスタートで、苦労しました。こうしてプロジェクトの創出や売り込みに奔走するうち、自分のやりたいことはビジネスであり、いつか『プロの経営者』になろうと考え出しました。ビジネススクールに行くことを決意した瞬間でした。

フランスで業務に取り組みつつ、夜中に受験準備を進めました。1999年、米国の複数のビジネススクールから入学許可をもらい、カリフォ



2001年6月UCLAアンダーソン経営大学院卒業式にて
中央右が筆者

ルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)のアンダーソン経営大学院に私費留学を決めました。この時、35歳。会社を辞め、家族と共にフランスから米国へ引っ越しをしました。入学してからも、カリキュラムや教授陣の素晴らしさはもちろん、優秀な同級生の多彩なバックグラウンドや人間性などから学ぶことも非常に多く、人生の中でも素晴らしい二年間を過ごせたと思います。

在学中に米国で就職活動をして、2001年9月、米国のコンサルティング会社に入社し、いよいよ目指す『プロの経営者』へ向けての第一歩を踏み出しました。

MBAを取得する過程で培った知識、国際的人脈、倫理観、思考意欲はその後の私の宝物となっています。またそれに加えて、不自由はなかった大企業の海外駐在員生活から、一転会社を辞めて私費留学をする決心をした私を応援し、目標達成まで常に支え続けてくれた家族も間違いなく生涯にわたる私の大事な宝物です。